

ヤノトラカミキリの記録

(兵庫県甲虫相資料・199)

高橋寿郎

ヤノトラカミキリ *Xylotrechus yanoi* Gressitt は県下では次の様な記録がある。

養父郡氷ノ山横行 [黒田, 1980, 1982], 城崎郡香住町鋸 [佐藤, 1981], 美方郡諸寄 [磯野, 1981], 浜坂町 [磯野, 1977], 鉢伏山 [遊磨, 1974], 扇の山 [辻, 1964, 岸田, 1972]。

いわゆる但馬のカミキリであり香住町鋸での多数の記録以外はそれ程数多く採集出来ているカミキリでは無い様である。1987年8月22日朝来町(朝来郡)の木材工場貯木場で小林桂助氏が1頭採集したと御教示頂いた。同じ但馬であるが割合南の方に位置する所であることと貯木場でミズナラ、ブナ、コナラ等の積んである所であったとのことで或は他の地域から運び込まれた材から発生したものかその辺のことはわかり兼ねるがそう多くないカミキリであるだけに小林氏の御了解を得て此処に記録しておきたいと思う。

同時に東 正雄氏から1972年7月30日鉢伏山で熱田氏が採集された1♀の記録を写真を付けて頂いている。鉢伏山の記録は既にあるのだが合せて報告させて頂く。

(AUG. 1987)

ツヤハダクワガタ 氷の山に産す

(兵庫県甲虫相資料・201)

高橋寿郎

かつて筆者が兵庫県のクワガタムシをまとめさせて頂いた時(てんとうむしNo.8:141-152, 1982) ツヤハダクワガタ *Ceruchus lignarius* Lewis, 1883 の兵庫県下での産に就いてふれさせて頂いた。即

ち筆者の知る範囲ではツヤハダクワガタを県下から記録されたのは大上宇一氏の“播磨産甲虫類”（1907）の中でだけの様に思われる。この記録も詳しいデータが無いし同定について“松村博士の日本千虫図解による”とあるから同書第3巻, pl.45, f.42によってであると本種ではなくチビクワガタ *Figulus binodulus* Waterhouseと間違えられたのでは無いかと言う気がしないでもないとしておいた。その後筆者は寡聞にして本種の兵庫県下での記録を知らなかった。北部山岳地域にはどうもいるのではないかと常々考えてはいたが一。

最近（1987年6月1日）大阪の大築正弘氏から次の様なうれしい御教示を頂くことが出来た。

即ち箕面昆虫館に氷の山産♂のツヤハダクワガタの標本が展示してあったと言うのである。旧館の時のことで新館では展示されていないとのこと現在標本がどうなっているかわからない。詳しいデータが無く氷の山と言っても鳥取県側か兵庫県側のどちらかもわからない。とに角間違いなく氷の山で採集されたものがあったと、また友人の方も確認しておられるとのこと。

更にこの後6月4日送られて来た“昆虫と自然 Vol.22, No. 7”の中で田中正浩氏が“兵庫県のクワガタムシ”を発表しておられツヤハダクワガタについては田中氏自身氷の山で幼虫を採集されたが飼育に失敗し標本が無いと言うことと豊岡高等学校に氷の山産の標本があったことを記しておられる。いずれも氷の山での記録であるので氷の山に本種がいることは間違い無い様だがどれも詳しいデータが全くわからない。それと標本が残念なことにどこにあるのかはっきりとしないものばかりである。そこで但馬地域の同好者の皆サンの頑張りで確認して頂きたいものと希望すると同時にこの貴重な情報を御教え下さった大築氏への御礼の意味をこめて此処に一文をしたためた次第である。

(JUNE 1987)

県内学会誌・同好会誌・連絡誌紹介（1985-1987）

第13巻第2号以後県関係文献紹介を中止していた。一応1985年～1987年7月迄に出版された県内学会誌・同好会誌・連絡誌名を此処に紹介しておきたい（勿論紹介者の手許に届いたものだけの収録であり他にもまだあることだとは思っている）。尚県産昆虫に関する文献は大変多く甲虫に関するものだけを見ても結構ある（拙編文献目録追加篇I, 1984以後1986年末迄でも260篇ある）。これ等を紹介することは今の所見込めないが何等かの方法を考えたいと思っている。